



山形大学と東北芸術工科大学が地域活性化に向けた連携活動で覚書を締結 ビジネス、テクノロジー、クリエイティブ領域を結合した人材育成、産業振興で協働

山形大学（学長：玉手英利）＝以下「山形大」＝と、東北芸術工科大学（学長：中山ダイスケ）＝以下「芸工大」＝は、山形県内地域活性化に向けた連携活動に関する覚書を締結しました。

（連携理由）

今後、地域や企業が発展していくためには、現状のアップデートではなく、新たな価値創造（イノベーション）を生み出していく必要があります。

今の時代に新しい前例のないものを考えるためには、「ビジネス」、「テクノロジー」、「クリエイティブ」を分業ではなく、3つの要素を有機的に連動させて事業を構想していくことが求められています。

例えば、マッキンゼーやアクセンチュアといったコンサルティングファームは従来、戦略、組織、マーケティングと、「ビジネス」の領域に特化していました。しかし、インターネット以降、戦略がよくてもIT・システムの設計や実装の質が低いとうまくいかないことが増えて、ITコンサルティングの比重が高まりました。「ビジネス」と「テクノロジー」の結合です。

そしてその後、「クリエイティブ」抜きではユーザーに支持される製品・サービスがつかれないことから、コンサルティングファームがデザインファームを買収して不足部分を補うのが世界的なトレンドになりました。

山形大と芸工大が国立・私立大学の垣根を超えて協働するのは、そうした時代の変化に対応し、単体ではできない人材のキャスティングにより、「ビジネス」、「テクノロジー」、「クリエイティブ」の3要素を実装することが可能になるからです。

具体的な活動として－

- ① 地元企業活動のビジネス、テクノロジー、クリエイティブによるイノベーション支援での連携
- ② 山形大において実績のある起業家教育と山形におけるクリエイティブ産業の育成での連携
- ③ 事業創出による若者の地元定着での連携
- ④ コロナウイルス感染症の影響が大きい、山形の観光産業を支援するため、山形の魅力あるモノ・コト、企業活動等を発掘し、磨き、高品質なコンテンツとして県外、世界に発信し、地域経済を活性する「グローバルブランディング事業」の立案・実行での連携（詳細については次ページを参照）

－について協議をしています。

■本件に関する問い合わせ先

東北芸術工科大学 担当：企画広報課 TEL：023-627-2246

山形大学国際事業化研究センター 担当：齋藤裕一 TEL：0238-26-3025

2020年5月18日
東北芸術工科大学
国立大学法人山形大学

「山形グローバルブランディング事業」のご提案

新型コロナウイルス感染症により大きなダメージをうけた産業の一つが観光業です。

事態が終息に向かうのをただ待つだけでなく、通常に人々が往来するときに訪れることを願いつつ、そのときがくる後の準備をしておきたいと思います。

このたび、山形大学(以下「山形大」)と、東北芸術工科大学(以下「芸工大」)は、山形県内地域活性化に向けた活動で連携することとなりました。

そして、最初の共同事業として、「山形グローバルブランディング事業」を提案します。

平時を迎えたのち、国内外の旅行者が真っ先に訪れたい土地が山形だ、と人々に山形をブランディングしていくのが、本事業の狙いです。

これまでの観光キャンペーンの主流であった「山形のいいモノ、コト」の発信から、「なぜ山形からいいモノ(コト)がうまれるのか」をテーマに、モノ(コト)にまつわるストーリーを起点に高品質なコンテンツをつくり、県外、世界に発信し、地域経済を活性化することを目指します。

例えば、インバウンド事業であれば、世界のSBNR(「Spiritual But Not Religious」=「宗教ではないが精神的なもの」)に関心の高い欧米の若者をマーケティングした映像コンテンツを発信し、山岳信仰や奇習などを活かした「精神文化ツーリズム」を確立します。

あるいは、山形の伝統工芸品と職人、製造業の熟練工のストーリーをコンテンツとして発信し、その職人に弟子入りする長期滞在型体験ツーリズムやインターンシップなどを各地域が商品化します。

これらは言わば「地域が稼ぐ新しい観光資源、企業活動=価値」を創造していく事業です。

そして、クラフト、食、カルチャー、テクノロジーなどの高品質コンテンツが、ある一定数蓄積された時点で、「なぜ山形からいいモノ(コト)がうまれるのか」の説明が始まり、「〇〇の山形」という山形のグローバルブランディング戦略をスタートさせます。

情報の発信・流通戦略では、映像コンテンツを主軸とします。トヨタ・レクサス、伊勢神宮などのグローバルブランディングを手がけた山形大学招聘講師で(株)next is east 代表のマンジョット・ベティ氏と芸工大が共同で高品質映像作品制作し、芸工大がプロモーション戦略を立案・実行します

いまだ、先行きが見えない状況です。

しかし、外出できない人々もインターネットを介して映像コンテンツを見ることはできます。

日常が世界に訪れるのを願い、そのときのために準備をし、疲弊した地域経済を盛り返すために、山形の魅力を掘り下げたいと思います。

山形グローバルブランディング事業の推進は、地方自治体、地元経済界等との連携が前提になります。本企画の主旨にご賛同いただき、事業化にむけてご検討いただける場合は、下記までご連絡いただきますようお願いいたします。

■本件に関する問い合わせ先

山形大学国際事業化研究センター

コーディネーター 齋藤裕一 (Yuichi Saito)

TEL : 0238-26-3025

E-Mail : ysaito@yz.yamagata-u.ac.jp